

環境経営レポート

株式会社オクトサイエンス

2024 年度

(対象期間 2024 年8月1日～ 2025 年7月31日)



目 次

項 目	ページ
目次	1
ごあいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	8
緊急事態対応訓練	8
代表者による全体の評価と見直し・指示	8

クリーンな地球。

人に優しい環境づくり。

私たちの技術は未来を見つめています。

ごあいさつ

株式会社オクトサイエンスは創業以来、『クリーンな地球、人にやさしい環境づくり』をモットーに、目に見えない環境の汚れを厳しくチェックする技術を育ててきました。地球と人が調和し共存できる21世紀になるような機器、環境にやさしい商品の提供を心がけ、なおかつ環境保護活動に努めることをお約束いたします。

環境経営方針

当社は、環境測定機器の製造・販売を主とする事業活動において、電力消費・化石燃料・産業廃棄物の徹底的な削減により環境負荷の低減を図るために、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。併せて、従業員一丸となり環境経営システムの継続的改善活動に取り組んでまいります。

環境保全への行動指針

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 創意工夫による省エネルギー等により二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄物排出量の削減、及び廃棄物の再利用に努めます。
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
5. 環境に配慮した製品の製造及び販売に努めます。
6. 本方針を全従業員に周知徹底します。



制定日 2008年11月1日

改定日 2023年8月1日

代表取締役社長 **植村 和人**

組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社オクトサイエンス
代表取締役社長 植村 和人

(2) 所在地

本 社(登記上) 大阪府吹田市千里山西6丁目32番30号
伊丹事業所 兵庫県伊丹市東有岡3丁目73番3号
伊丹テクニカルセンター 兵庫県伊丹市東有岡3丁目13番9号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者・担当者 総務部 本田 亜紀
TEL : 072-743-9040
E-mail : a-honda@oct-science.com

(4) 事業内容

大気・排ガス用サンプリング装置の開発・製造・販売

(5) 事業の規模

売上高 93,375 千円 (2024年度実績)

	伊丹事業所	伊丹テクニカルセンター	合計
従業員 名	5 名	0 名	5名
延べ床面積 m ²	150 m ²	42 m ²	192m ²

※伊丹テクニカルセンターは作業時のみ使用

(6) 事業年度 8 月 1 日 ~ 7 月 31 日

□ 認証・登録の対象組織・活動

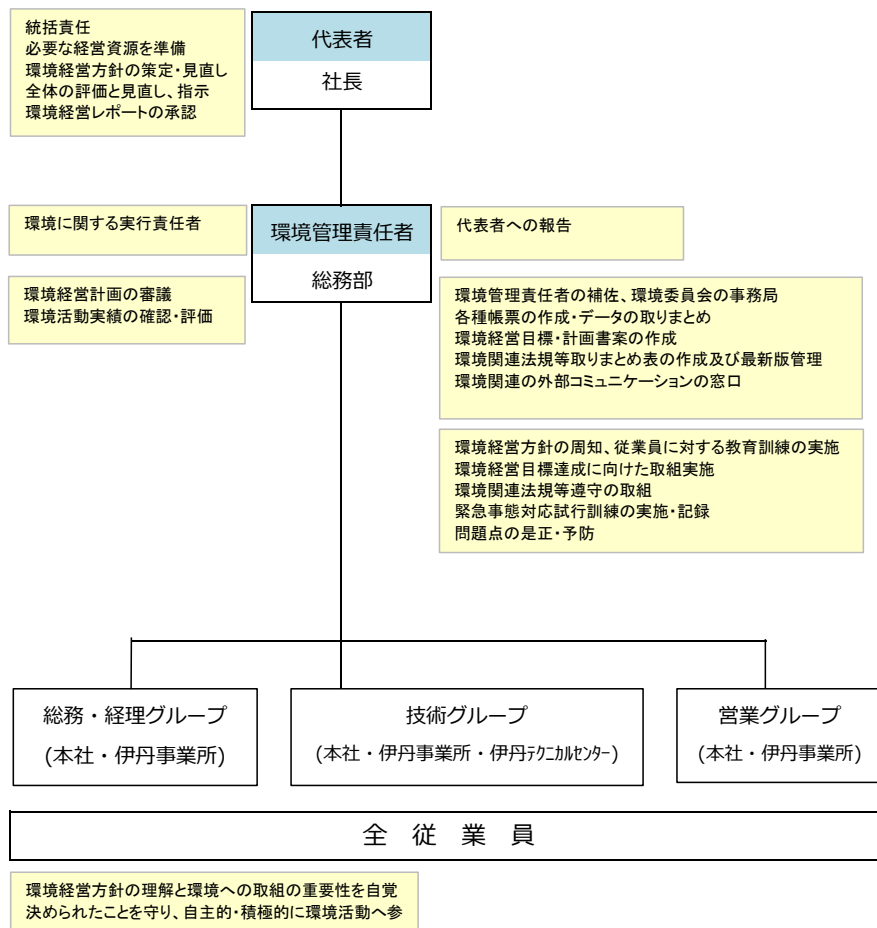
登録組織名： 株式会社オクトサイエンス

対象事業所： 伊丹事業所
伊丹テクニカルセンター

活動： 大気・排ガス用サンプリング装置の開発・製造・販売

環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：2025年7月31日



主な環境負荷の実績

項目	単位	2022年	2023年	2024年	
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	10,390	10,286	10,879	
廃棄物排出量					
一般廃棄物排出量	kg	240	273	280	
水使用量	m ³	50	46	49	
※電力の二酸化炭素排出係数（調整後）		関西電力2021年度	0.311	0.311	kg-CO ₂ /kWh
		大阪ガス2022年度	0.335	0.335	kg-CO ₂ /kWh

※ 2022年度以降の大阪ガス(株)の電力の二酸化炭素排出係数は、2022年実績の調整後排出係数0.335kg-CO₂/kWhを使用

環境経営目標及びその実績

項目	年度	2023年			2024年		評価	2025年	2026年
		(基準値)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)			
電力による二酸化炭素	kWh	9,574	9,478	9,461	○	9,383	9,287		
	基準年度比		99%	99%		98%	97%		
売上高原単位	kWh/千円	0.012	0.012	0.016	×	0.012	0.012		
	kg-CO ₂	3,176	3,144	3,134	○	3,113	3,081		
売上高原単位	kg-CO ₂ /千円	0.004	0.004	0.005	×	0.004	0.004		
	kg-CO ₂	7,213	7,141	7,745	×	7,069	6,997		
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂								
	基準年度比		99%	107%		98%	97%		
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	10,390	10,286	10,879		10,182	10,078		
一般廃棄物の削減	kg	273	267	280	×	267	265		
	基準年度比		98%	103%		98%	97%		
水道水の削減	m ³	46.0	45.5	49.0	×	45	45		
	基準年度比		99%	107%		98%	97%		
環境に配慮した製品・サービスへの取り組み		行動目標(次項による)							
課題を解決しチャンスを活かす取組		行動目標(次項による)							

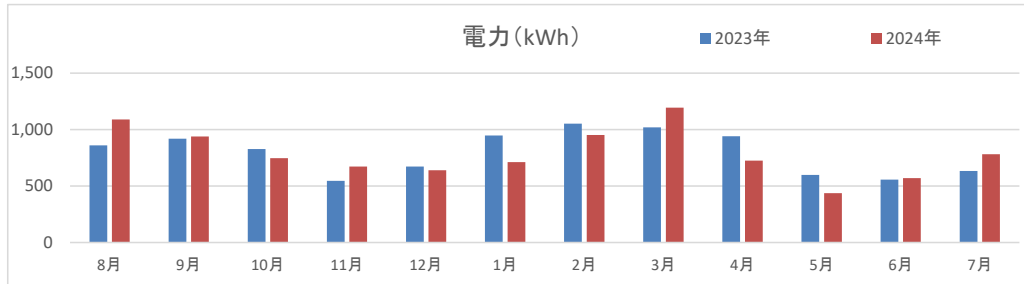
※ 自社からの産業廃棄物排出量は少量であるため目標としないが削減活動は継続して推進する

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標: ○達成 ×未達成

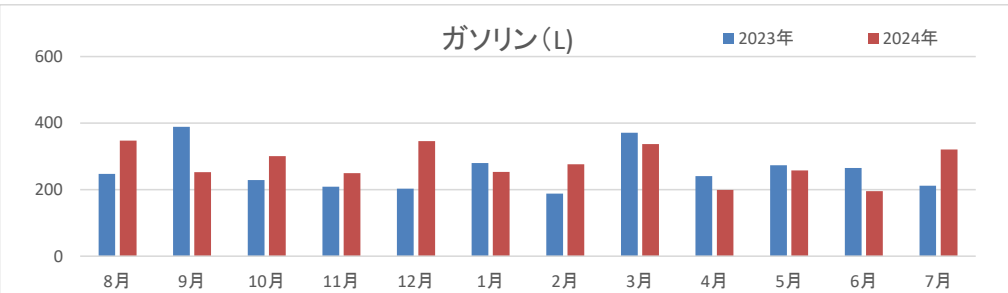
活動: ○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	夏季の事務所内温度が低めに設定されている。作業中、事務員共に快適な温度にすることは難しいが理解を得られるよう呼びかけする。作業中に理解を得られるよう呼びかけする。断熱材がほとんど入っていない等建物の構造上、空調効率が悪く年々上がる夏の気温に対応できていない。また6月頃より受注増加に伴い業務時間が延長されたことも原因で基準年と比較して101%となった。来年度は電力会社の見直しを行う予定。
原単位目標	×	
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	
・節電運動の継続	○	
・サーキュレーターを設置	○	
・不要照明、空調、電源をオフ	○	
・設備の空運転禁止	○	



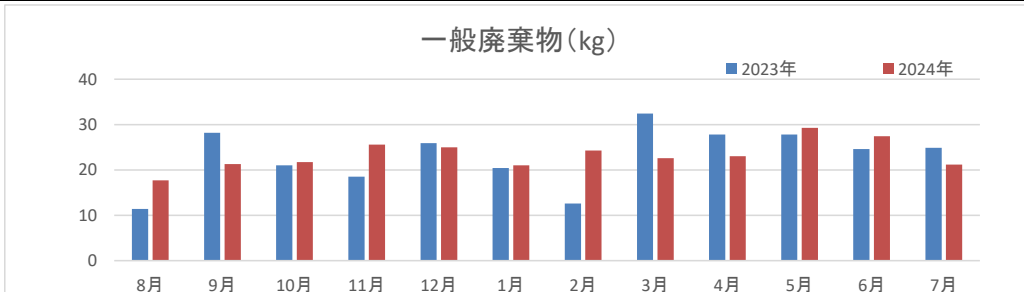
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
2023年	860	920	828	546	673	947	1,052	1,020	941	598	556	633
2024年	1,089	940	747	672	640	713	952	1,195	725	437	569	782

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	前年比107%で、概ね例年通り推移している。エコ運転を心がけ、遠方への出張は飛行機やフェリーを使用するなど工夫できている。燃料の削減にはならないが来年度は営業活動の増加を見込んでいく。
・エコ運転の継続	○	
・急加速・急停止の防止	○	
・効率的な移動	○	



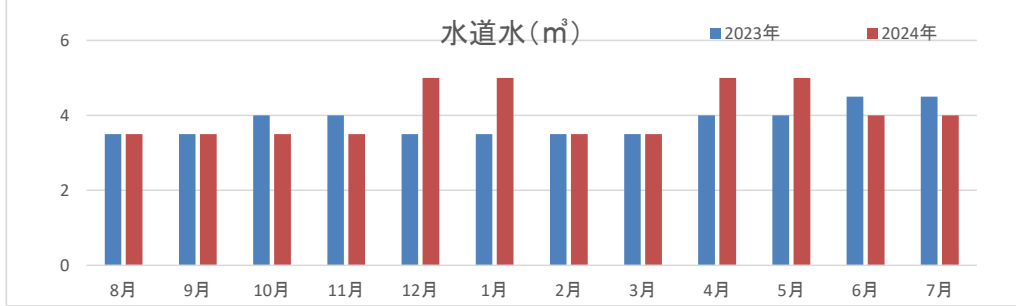
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
2023年	247	389	229	209	203	280	188	371	241	273	265	212
2024年	347	253	301	249	346	253	276	337	199	258	195	321

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	借しくも目標達成とはならず。梱包材の見直しや、ペットボトル・ペーパータオルなどの使用を見直し、生活ゴミの削減に取り組む。
・分別によるリサイクルの推進	○	
・ミスコピー、不要な印刷の防止	○	
・梱包材の再利用	○	



	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
2023年	11	28	21	19	26	20	13	32	28	28	25	25
2024年	18	21	22	26	25	21	24	23	23	29	27	21

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	目標値は達成できていないが使用量の大きな変動はなし。節水を徹底し積極的に取り組めているため、このまま継続する。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・自動水栓取り付け	○	



	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
2023年	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5
2024年	4	4	4	4	5	5	4	4	5	5	4	4

環境に配慮した製品・サービスへの取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・持続可能な原材料の採用	○	PFOS、PFOA含有廃棄物の処理に関する技術的留意事項が発表されたため、専用の排ガス測定装置及び機材をカタログ及びホームページ上で提案。
・分解・分別しやすい製品の提供	○	
・有害性の少ない原材料の使用	○	

課題を解決しチャンスを活かす取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・技術の継承	○	顧客のニーズに合わせた特注品を提案し開発を進め、既存と新規の顧客からの受注につながった。
・企業価値向上による顧客獲得	○	
・新製品・商品開発	○	
・働き方改革	○	

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	保管基準の順守、収集運搬・処分業者との適正契約、一般廃棄物の適正処理、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出
消防法（危険物）	消火設備・火災警報設備の点検整備
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の定期点検と記録、漏洩防止、廃棄時の適切な処理
顧客要求事項	環境管理、品質管理

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

近隣住民からの苦情、要望等は過去3年間ありませんでした。

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 大地震の発生	
■実施日： 2024/9/6	■実施場所 伊丹事業所
■参加者： 植村和人、本田和行、植村恭子、本田亜紀、宮本信克、濱元綾子	
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 通報訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練	
■評価： 手順書の変更の必要性 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	
2023年度の手順書(火災・震災用)に沿って行ったため、2025年度では大地震発生に沿った手順書を作成し直す必要がある。	
■実施状況の様子	
大地震が発生したと想定し訓練を実施。 まず各自で身を守り、火元・電源を確認し、避難場所及び避難経路の確認を行った。	

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2025年7月31日

例年と同様に全従業員で電力使用量の削減に取り組んでいますが、急速な温暖化等、環境の変化に伴った使用量は年々増加しており目標値を達成できていません。車、電化製品等買い替えの際は可能な限り環境に配慮した製品を選択するなど工夫しながら、このまま取り組みを継続していきます。また、経営面では新製品開発やモデルチェンジなどで製品の付加価値を高め、顧客のニーズにあった提案ができるよう努めてまいります。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり